

遠隔授業の実践について

リオデジャネイロ日本人学校 渡辺 稔

【実践例】小1算数 単元名「なかまづくりと かず」

○実施時期；4月中旬～5月上旬

○対象児童；1名（少人数ならではの取り組み）

○児童の環境；教科書有、算数セット無、ドリル無、家庭にプリンター無

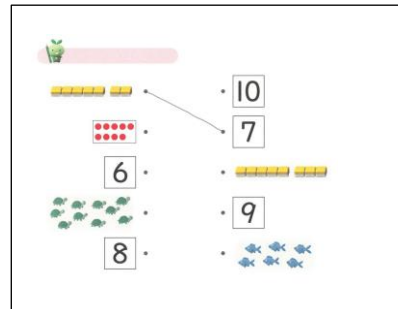
小学校1年生が、入学式の次の日からいきなりオンライン授業ということで、最初は手探りで学習を開始した。幸い最初は保護者が一緒に授業に参加し、機器の扱い方を含め補助をしていただいたので、授業をスムーズに進めることができた。

小学校1年生ということもあり、一方的な授業ではなく、作業（操作）を入れながらの授業を行いたいと考えた。しかし、算数ブロックなどの道具もなく、最初は段ボールで算数ブロックを作り学習を進めたが、児童の手元が見えないためオンラインでの限界を感じていた。現在は、共有画面を用いながら、子どもが飽きないよう工夫しながら、授業に取り組んでいる。

例1 数字の練習では、共有画面を使って書き順の指導とともに、児童が画面上で数字を書くことで、書き順等のチェックをすることができた。（タッチペンがないので指で書いたが、タッチペンがあると書きやすい）

6 7 8 9 10

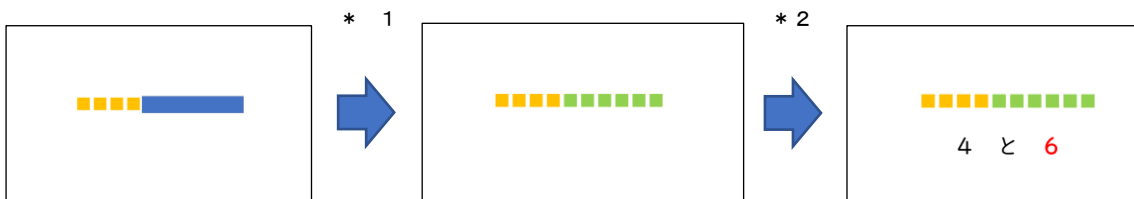
例2 教科書やフリードリルの一部を切り取り、画面共有する中で、おなじ数を線で結ぶなどの作業（操作）を行う。



例3 パワーポイントのアニメーション機能を使って、「10はいくつといくつ」を動きのある画面で考えさせた。

* 1 児童が答えた後、青色のバーが消え、下に隠れているブロックが見える。

* 2 隠れていたブロックの数を確認した後、「4と6」が現れ、答えの確認をする。
など。



【課題】

- ・画面の動きと、音声の到着に時間差がある。
 - ⇒ 児童の表情を見ながら、できるだけゆっくり進める。
- ・通信状況により、音声や画像が上手につながらない。
 - ⇒ 少人数でしかできないが、通信が切れてしまったときは、無料通話 WhatsApp で代替えた。
- ・授業準備にかなりの時間を要すること。
 - ⇒ 通常授業より準備に時間がかかるため、全ての教科で十分な準備をするのは難しいのではないか。
- ・機器等の習熟度が低いこと。
 - ⇒ 自己研修を怠らないで習熟度を高めていく。また、関連機器についても調べ、増設できるよう努める。

手探りで遠隔授業を始めたばかりで実践としてはまだ成果はありません。現在試行錯誤しながら取り組んでいる様子を報告させていただきました。